



## サーバのインストール

---

- [設置の準備](#) (1 ページ)
- [ラックへのサーバの設置](#) (5 ページ)
- [サーバの初期設定](#) (12 ページ)
- [NIC モードおよび NIC 冗長性設定](#) (17 ページ)
- [システム BIOS へのアクセス](#) (19 ページ)
- [BIOS および Cisco IMC のファームウェアの更新](#) (19 ページ)

## 設置の準備

### 設置に関する警告およびガイドライン



---

(注) サーバの設置、操作、または保守を行う前に、『[Cisco UCS C-シリーズサーバの規制コンプライアンスと安全性情報](#)』を参照して重要な安全情報を確認してください。

---



---

#### 警告 安全上の重要な注意事項

この警告マークは「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。 **Before you work on any equipment, be aware of the hazards involved with electrical circuitry and be familiar with standard practices for preventing accidents.** 各警告の最後に記載されているステートメント番号を基に、装置に付属の安全についての警告を参照してください。

ステートメント 1071

---



**警告** システムの過熱を防ぐため、最大推奨周囲温度の 35°C（95°F）を超えるエリアで操作しないでください。

ステートメント 1047



**警告** いつでも装置の電源を切断できるように、プラグおよびソケットにすぐ手が届く状態にしておいてください。

ステートメント 1019



**警告** この製品は、設置する建物に短絡（過電流）保護機構が備わっていることを前提に設計されています。この保護装置の定格が 250 V、15 A 以下であることを確認します。

ステートメント 1005



**警告** 装置は地域および国の電気規則に従って設置する必要があります。

ステートメント 1074



**警告** この装置は、立ち入りが制限された場所への設置を前提としています。立ち入りが制限された場所とは、特殊な器具、錠と鍵、またはその他の保安手段を使用しないと入れない場所を意味します。

ステートメント 1017



**警告** この装置は、アースさせる必要があります。絶対にアース導体を破損させたり、アース線が正しく取り付けられていない装置を稼働させたりしないでください。アースが適切かどうかははっきりしない場合には、電気検査機関または電気技術者に確認してください。

ステートメント 1024



**警告** 北欧諸国（ノルウェー、フィンランド、スウェーデン、デンマーク）では、このシステムは、すべての機器のメインアース接続の電圧が同じ（等電位接地）であり、システムが接地された電源コンセントに接続されている、アクセス制限区域に設置する必要があります。

ステートメント 328



**警告** システムの電源接続の前に高リーク電流アース接続を行う必要があります。

ステートメント 342



**警告** 本機器は、電力を供給する前に、お客様が準備した地線を使用して外部接地する必要があります。アースが適切かどうかははっきりしない場合には、電気検査機関または電気技術者に確認してください。

ステートメント 366



**注意** サーバを取り付ける際は、適切なエアフローを確保するために、レールキットを使用する必要があります。レールキットを使用せずに、ユニットを別のユニットの上に物理的に置く、つまり「積み重ねる」と、サーバの上部にある通気口がふさがれ、過熱したり、ファンの回転が速くなったり、電力消費が高くなったりする原因となる可能性があります。サーバをラックに取り付けるときは、これらのレールによりサーバ間で必要な最小の間隔が提供されるので、レールキットにサーバをマウントすることを推奨します。レールキットを使用してユニットをマウントする場合は、サーバ間の間隔を余分にとる必要はありません。



**注意** 鉄共振技術を採用している無停電電源装置（UPS）は使用しないでください。このタイプのUPSは、Cisco UCSなどのシステムに使用すると、データトラフィックパターンの変化によって入力電流が大きく変動し、動作が不安定になるおそれがあります。

サーバを設置する際には、次のガイドラインに従ってください。

- サーバを設置する前に、設置場所の構成を計画し、設置環境を整えます。設置場所を計画する際に推奨される作業については、『[Cisco UCS サイト準備ガイド](#)』を参照してください。
- サーバの周囲に、サーバへのアクセスおよび適切な通気のための十分なスペースがあることを確認します。サーバ内では前面から背面へ空気が流れます。
- 空調が、[環境仕様](#)に記載された温度要件に適合していることを確認します。
- キャビネットまたはラックが、[ラックに関する要件（4 ページ）](#)に記載された要件に適合していることを確認します。
- 設置場所の電源が、[電力仕様](#)に記載された電源要件に適合していることを確認します。使用可能な場合は、電源障害に備えて無停電電源装置（UPS）を使用してください。

## ラックに関する要件

次のタイプのラックを使用する必要があります。

- 標準的な 19 インチ (48.3 cm) 幅 4 支柱 EIA ラック (ANSI/EIA-310-D-1992 のセクション 1 に準拠した英国ユニバーサル ピッチに適合するマウント支柱付き)。
- 付属のシスコ製スライド レールを使用する場合、ラック支柱の穴は、9.6 mm (0.38 インチ) の正方形、7.1 mm (0.28 インチ) の丸形、#12-24 UNC、または #10-32 UNC になります。
- サーバあたりの縦方向の最小ラック スペースは、4 RU (ラックユニット)、つまり 177.8 mm (7.0 インチ) である必要があります。

### サポートされるシスコ製スライド レール キット

サーバは、次のレール キット オプションをサポートします。

- シスコ製品 UCSC-RAIL-4U-M5= (ボールベアリング スライド レール キット)。
- シスコ製品 UCSC-CMA-4U-M5= (ケーブル マネジメント アーム)

### ラックの設置に必要な工具

シスコが販売するこのサーバ用のスライド レールの場合、設置に必要な工具はありません。

### スライド レールおよびケーブル マネジメント アームの寸法

このサーバのスライド レールの調整範囲は 24 ～ 36 インチ (610 ～ 914 mm) です。

オプションのケーブル マネジメント アーム (CMA) を使用する場合、長さの要件がさらに追加されます。

- サーバの背面から CMA の背面までの距離は、137.4 mm (5.4 インチ) 追加されます。
- CMA を含むサーバの全長は 35.2 インチ (894 mm) です。

## ラックへのサーバの設置



### 警告

ラックにこの装置をマウントしたり、ラック上の装置の作業を行うときは、ケガをしないように、装置が安定した状態に置かれていることを十分に確認してください。安全を確保するために、次のガイドラインを守ってください。

ラックに設置する装置が1台だけの場合は、ラックの一番下に取り付けます。

ラックに複数の装置を設置する場合は、最も重い装置を一番下に設置して、下から順番に取り付けます。

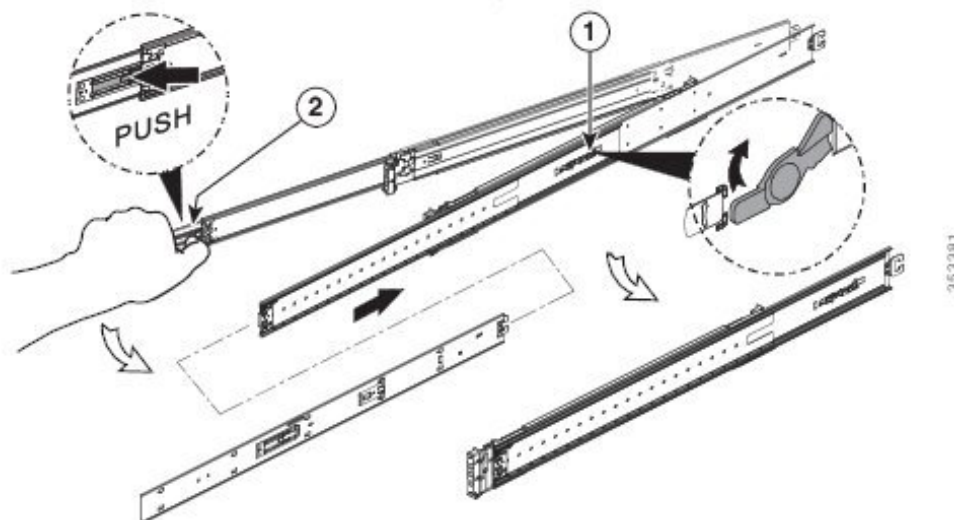
ラックにスタビライザが付いている場合は、スタビライザを取り付けてから、ラックに装置を設置したり、ラック内の装置を保守したりしてください。

ステートメント 1006

### ステップ1 スライドレールアセンブリから内側レールを取り外します:

- カチッという音がするまで中間および内側のスライドレールをスライドさせ、完全に開く位置に固定します。
- 内側レールのリリースクリップを押し下げたまま、アセンブリから内側レールを引き出します。
- レールアセンブリ内に中間レールを折りたたみながら、レールリリースラッチを押し下げます。

図 1: アセンブリからの内側レールの取り外し



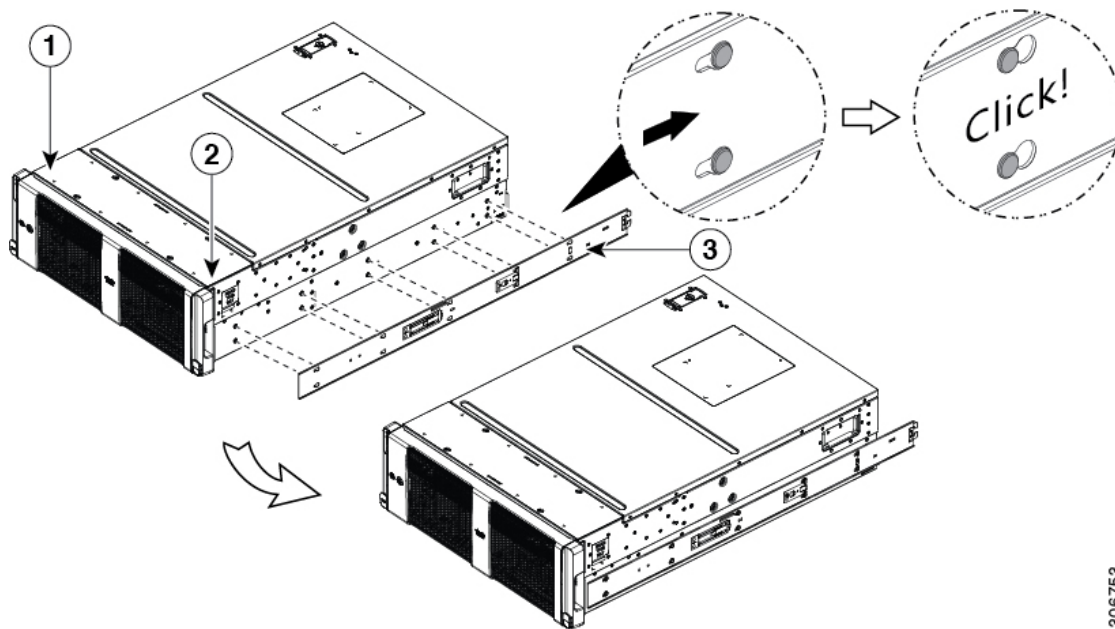
1	レールリリースラッチ	2	内側レールのリリースクリップ
---	------------	---	----------------

### ステップ2 サーバの側面に内側レールを装着します。

(注) 内側レールは同一ではありません。(シャーシの正面から見て) 左側のレールと右側のレールがあります。内側レールには「L」(左側)、または「R」(右側) というマークが付けられています。

- a) 「L」というマークが付けられた左側のレールと、シャーシの(正面から見て) 左側の位置を合わせます。レールの 10 個の鍵付きスロットとシャーシの側面にある 10 個のペグの位置を合わせます。
- b) キー付きスロットをペグに設定し、レールを前面に向けてスライドさせて、ペグの所定の位置にロックします。
- c) 「R」というマークが付いた右側の内側レールを(正面から見て) シャーシの右側に取り付けます

図 2: サーバ側面への内側レールの取り付け



306753

1	シャーシの左側	3	「R」というマークが付いた右側の内側レール
2	シャーシの右側	-	

### ステップ3 スライドレールをラックに取り付けます。

(注) スライドレールアセンブリは同一ではありません。(ラックの正面から見て) 左側のレールと右側のレールがあります。アセンブリには「L」(左側)、または「R」(右側) というマークが付けられています。

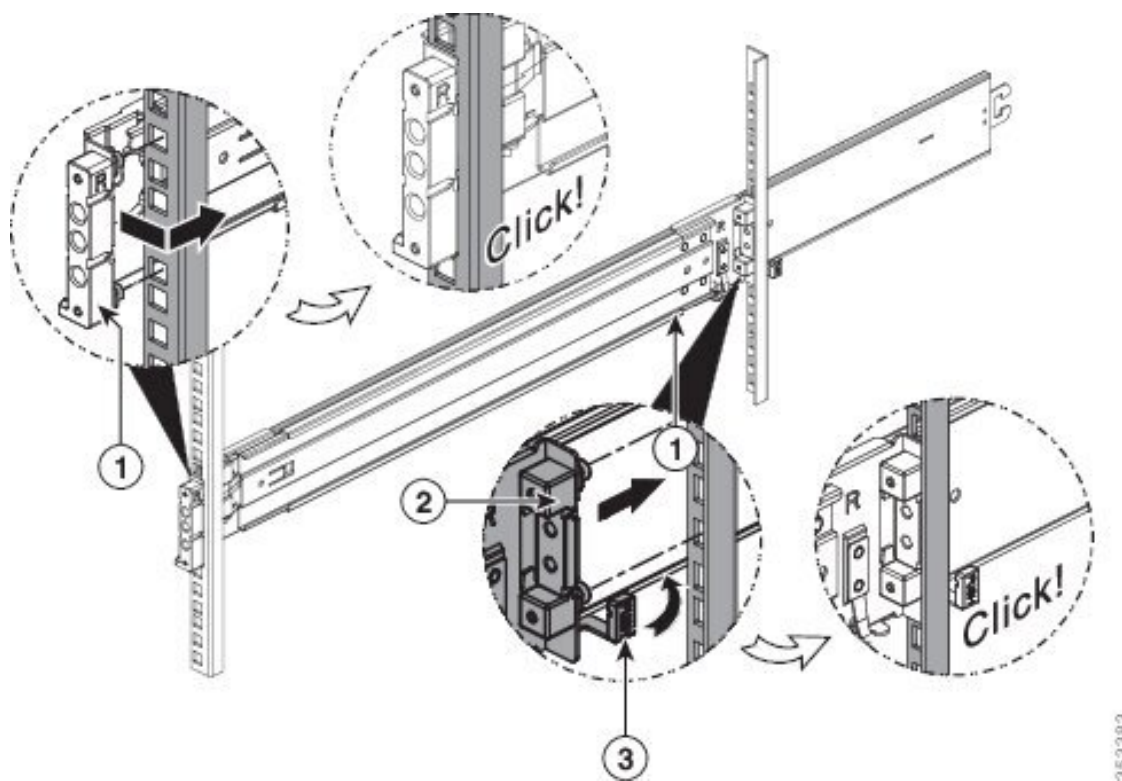
- a) 左側のスライドレールアセンブリ(「L」というマークが付けられている)の前部と(ラックの正面から見て) 前面左側のラック支柱の位置を合わせます。

スライドレールの前部がラック支柱の外側を回り込むように配置され、取り付けペグが外側の前部からラック支柱の穴に入ります。

スライドレールアセンブリの底部をラックユニットの所定の底部の位置に合わせます。

- b) カチッと音がしてロックされるまで、ラック支柱の穴に前側の取り付けペグを押し込みます。
  - c) 背面ラック支柱が完全に水平になるようにスライドレールの長さを調整します。  
 (注) レールが完全に水平になっていて、同じ高さのラック支柱の穴が前面と背面の支柱に使用されていることを確認します。
  - d) 背面ペグのスプリング ラッチを外し、背面の取り付けペグを背面ラック支柱の穴に押し込みます  
 背面取り付けペグを、ラック支柱の内側から背面ラック支柱の穴に入れます。
  - e) 背面ペグのスプリング ラッチを外し、背面ペグを所定の位置に固定します。
  - f) 2つ目のスライドレール部品を、ラックの反対側に取り付けます。2つのスライドレール部品が同じ高さであり、水平になっていることを確認します。
- 注意** サーバをラックに取り付ける前に、すべてのペグがラック支柱の穴に完全に差し込まれていることを確認します。

図 3: ラック支柱へのレール アセンブリの取り付け



1	前面の取り付けペグ。外側の前部からラック支柱の穴に入れます。	3	背面ペグのスプリング ラッチ
2	背面の取り付けペグ。後方内部からラック支柱の穴に入れます。		

**ステップ4** 所定の位置に収まって留まるまで、各部品の内側のスライドレールをラック前方へ引き出します。

**ステップ5** サーバを次のようにスライドレールに装着します。

**注意** このサーバは、コンポーネントがフルに搭載されている場合、最大で66.kg（146ポンド）の重量になります。サーバを持ち上げるときは、2人以上で行うか、リフトを使用することを推奨します。この手順を1人で実行しようとする、怪我や機器の損傷を招くおそれがあります。

(注) ラックレールのチャンネルは側面荷重に対して脆弱です。レールが破損しないように、徐々にシャーシを取り付けます。

- a) サーバの側面に装着されている内側レールの後端を、ラック上の中間レールの前端の位置に合わせます。

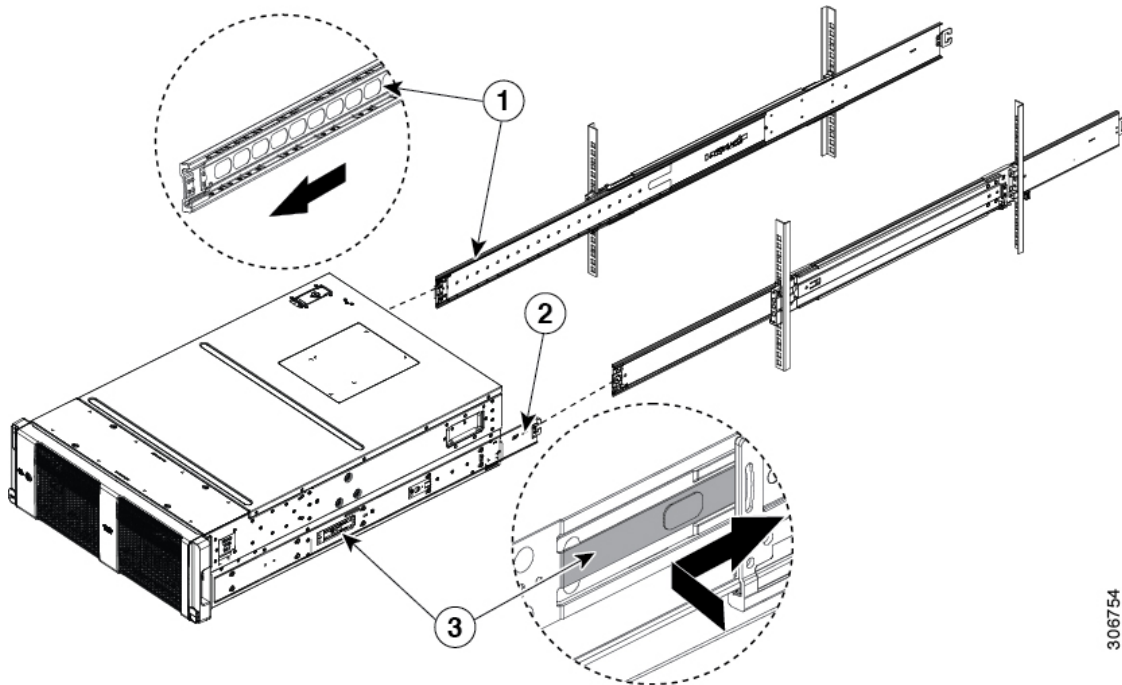
**注意** シャーシの内側レールがラックの中間レールと平行になっていることを確認します。これを行うには、リフトの位置の上下左右の調整が必要になる場合があります。リフトでこのような動作に対応できない場合は、シムの使用を検討してください。内側レールの端部が上下左右とも中間レールの端部と揃っていなければなりません。

- b) ラックに向かってシャーシを十分にゆっくりと押し込みます。レールの端部が互いにかみ合い、レールチャンネルの上部と下部に完全にはめ込まれていることを確認します。
- c) 内部の停止位置で止まるまで、内側レールをラック上のスライドレールにゆっくり押し込みます。
- d) 各内側レールのリリースクリップを内側に押し、前面スラムラッチがラック支柱とかみ合うまで、サーバをラック内に押し込み続けます。

**注意** ラックにサーバを押し込む前に、内側レールの両方のリリースクリップが押し込まれていることを確認します。レールを損傷しないように、サーバをレールにゆっくりと押し込みます。サーバを押し込み始めたら、リリースクリップボタンを緩めていきます。



図 4:内側レール リリース クリップ



1	外部レールから拡張した中間レール	3	内側レールのリリース クリップ
2	サーバに装着されている内側レール	-	

**ステップ 6** (任意) スライドレールに付属の 2 本のネジを使用して、サーバをさらに確実にラックに固定します。サーバを取り付けたラックを移動する場合は、常にこの手順を実行します。

サーバをスライドレールに完全に押し込んだ状態で、サーバ前面のヒンジ付きスラムラッチのレバーを開き、レバーの下にある穴からネジを挿入します。ネジがラック支柱のレールの静止部分に挿入され、サーバが引き抜かれるのを防ぎます。反対のスラムラッチについても行ってください。

**注意** 内側レールのリリースクリップを押し下げると、中間レールの全長にわたってシャーシがスライドするため、怪我や機器の損傷を招くおそれがあります。シャーシをラックの外に引き出すと、内部ロック停止位置で停止します。シャーシをスライドさせてラックに戻したり、またはラックからシャーシを完全に取り外す場合を除いて、内側レールのリリースクリップは押し下げないでください。試しにラックからシャーシを初めて引き出すときは、誤って落下させることがないようにシャーシの下に機械式のリフトを配置することを推奨します。

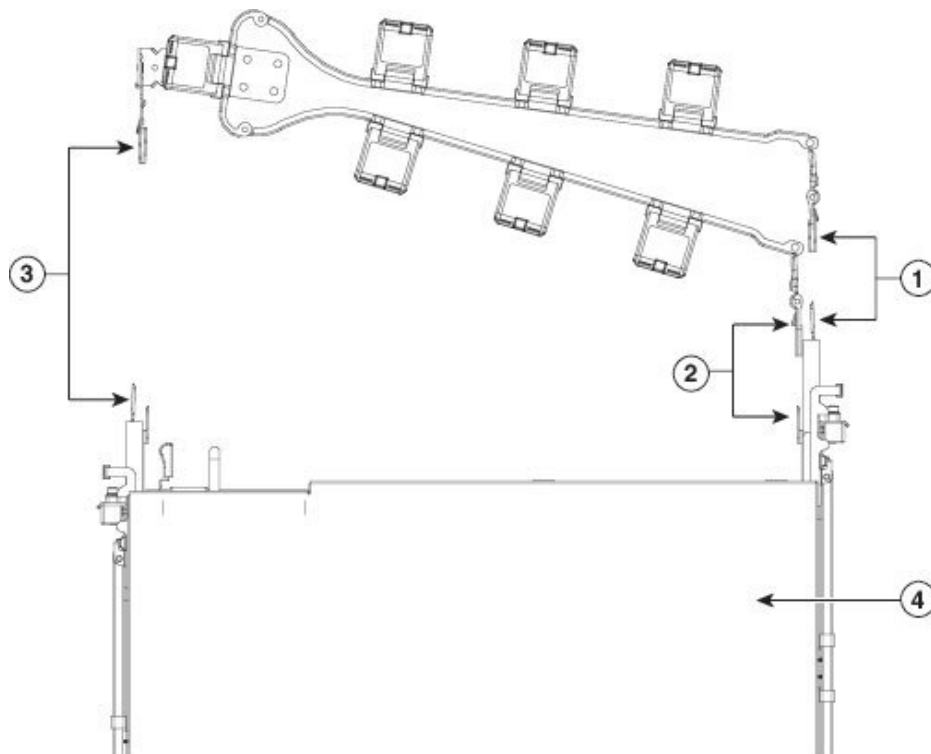
## ケーブル マネジメント アームの取り付け（任意）



（注） ケーブルマネジメントアーム（CMA）は、左右を逆にして取り付けることができます。CMAを逆に取り付けるには、取り付ける前に [ケーブルマネジメントアームを逆に取り付け（任意）（11 ページ）](#) を参照してください。

**ステップ 1** サーバをラックに完全に押し込んだ状態で、サーバから最も離れたCMAアームのCMAタブを、ラック支柱に取り付けられている固定スライドレールの終端に押し込みます。カチッと音がしてロックされるまで、タブをレールの終端にスライドさせます。

図 5: スライドレール後端への CMA の取り付け



1	サーバから最も離れたアームの CMA タブは、外側の固定スライドレールの終端に取り付けます。	3	幅調整スライダの CMA タブは、外側の固定スライドレールの終端に取り付けます。
2	サーバに最も近いアームの CMA タブは、サーバに装着された内側のスライドレールの終端に取り付けます。	4	サーバ背面

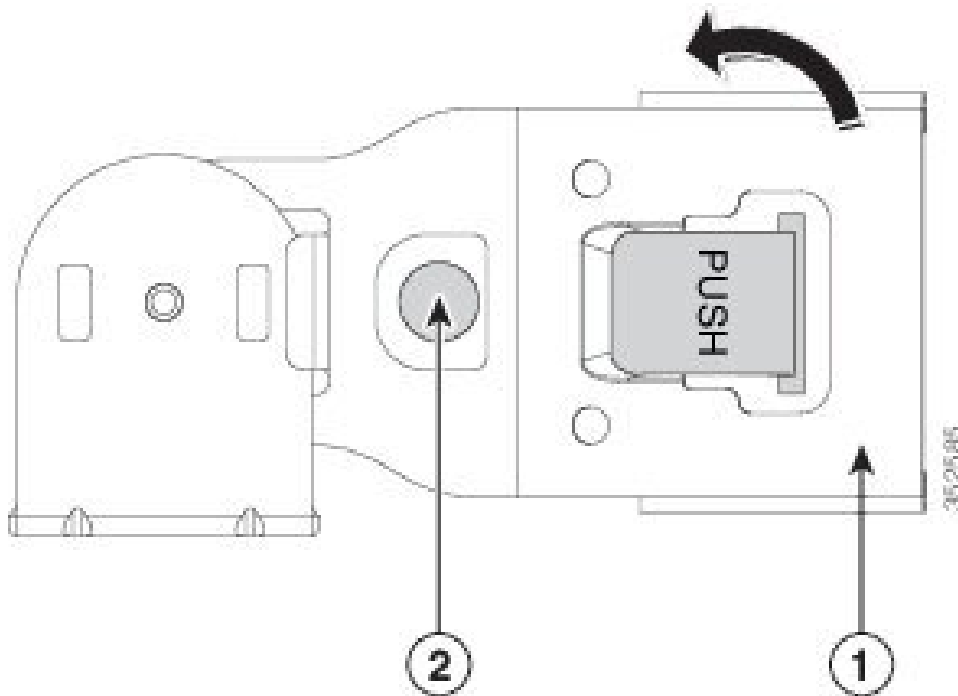
**ステップ 2** サーバに最も近い CMA タブを、サーバに取り付けられている内側レールの終端に押し込みます。カチッと音がしてロックされるまで、タブをレールの終端にスライドさせます。

- ステップ3** CMA アセンブリの反対側の終端にある幅調整スライダを、ラックの幅まで引き出します。
- ステップ4** 幅調整スライダの終端にある CMA タブを、ラック支柱に取り付けられている固定スライド レールの終端に押し込みます。カチッと音がしてロックされるまで、タブをレールの終端にスライドさせます。
- ステップ5** 各プラスチック製ケーブルガイドの上部でヒンジ付きフラップを開き、必要に応じてケーブルガイドを通してケーブルを配線します。

## ケーブル マネジメント アームを逆に取り付け（任意）

- ステップ1** CMA アセンブリ全体を、左から右へ 180 度回転させます。プラスチック製ケーブル ガイドは、上を向いたままにしておく必要があります。
- ステップ2** サーバの背面を向くように、CMA アームの終端でタブを反転させます。
- ステップ3** 幅調整スライダの終端にあるタブを回転させます。タブの外側の金属ボタンを長押しし、サーバの背面を向くようにタブを 180 度回転させます。

図 6: CMA の反転



1	幅調整スライダの終端の CMA タブ	2	タブの外側の金属ボタン
---	--------------------	---	-------------

# サーバの初期設定



(注) ここでは、サーバをスタンドアロンモードで使用する場合はサーバの電源投入方法、IP アドレスの割り当て方法、サーバ管理への接続方法について説明します。サーバを Cisco UCS Manager の統合で使用する場合は、特定のケーブル接続および設定が必要です。[Cisco UCS Manager 統合に適した設置方法](#)を参照してください。

## サーバのデフォルト設定

サーバは次のデフォルト設定で出荷されます。

- NIC モードは *Shared LOM EXT* です。

Shared LOM EXT モードでは、1 Gb/10 Gb イーサネット ポートおよび取り付け済みの Cisco 仮想インターフェイスカード (VIC) 上のすべてのポートが、Cisco Integrated Management Interface (Cisco IMC) にアクセスできます。10/100/1000 専用管理ポートを使用して Cisco IMC にアクセスする場合は、[Cisco IMC 設定ユーティリティを使用したシステムのセットアップ \(15 ページ\)](#) の説明に従って、サーバに接続して NIC モードを変更できます。

- NIC の冗長性はアクティブ-アクティブです。すべてのイーサネット ポートが同時に使用されます。
- DHCP は有効になっています。
- IPv4 は有効です。

## 接続方法

システムに接続して初期設定を行うには、次の 2 つの方法があります。

- ローカル設定：キーボードとモニタをシステムに直接接続して設定を行う場合は、この手順を使用します。この手順では、KVM ケーブル (Cisco PID N20-BKVM) またはサーバの背面にあるポートが使用できます。
- リモート設定：専用管理 LAN 経由で設定を行う場合は、この手順を使用します。



(注) システムをリモートで設定するには、システムと同じネットワーク上に DHCP サーバが存在する必要があります。このサーバノードの MAC アドレスの範囲を、DHCP サーバにあらかじめ設定しておく必要があります。このサーバノードでは、Cisco IMC に 6 つの MAC アドレスの範囲が割り当てられています。ラベルに印字されている MAC アドレスは、6 つの連続 MAC アドレスのうち最初のもので。

## ローカル接続によるサーバの設定

この手順には、次の機器が必要です。

- VGA モニタ
- USB キーボード
- サポートされている Cisco KVM ケーブル（Cisco PID N20-BKVM）、または USB ケーブルと VGA DB-15 ケーブル

**ステップ 1** 電源コードをサーバの各電源装置に接続し、次に、接地された AC 電源コンセントに各コードを接続します。

初回のブート時には、サーバが起動してスタンバイ電源モードになるまでに約 2 分かかります。システムの電源ステータスは、前面パネルのシステムの電源ステータス LED で確認できます。LED がオレンジの場合、サーバはスタンバイ電源モードです。

**ステップ 2** 次のいずれかの方法を使用して、USB キーボードと VGA モニタをサーバに接続します。

- オプションの KVM ケーブル（Cisco PID N20-BKVM）を前面パネルの KVM コネクタに接続します。USB キーボードと VGA モニタを KVM ケーブルに接続します。
- USB キーボードと VGA モニタを背面パネルの対応するコネクタに接続します。

**ステップ 3** Cisco IMC 設定ユーティリティを開きます。

- 前面パネルの電源ボタンを 4 秒間長押しして、サーバを起動します。
- ブートアップ時に、Cisco IMC 設定ユーティリティを開くよう求められたら **F8** を押します。

（注） Cisco IMC 設定ユーティリティを初めて開始すると、デフォルトのパスワードの変更を要求するプロンプトが表示されます。デフォルトパスワードは *password* です。強力なパスワード機能が有効になっています。

強力なパスワードの要件は、次のとおりです。

- パスワードは最低 8 文字、最大 14 文字とすること。
- パスワードにユーザ名を含めないこと。
- パスワードには次の 4 つのカテゴリの中から 3 つに該当する文字を含めること。
  - 大文字の英字（A ～ Z）
  - 小文字の英字（a ～ z）
  - 10 進数の数字（0 ～ 9）
  - 非アルファベット文字（!、@、#、\$、%、^、&、\*、-、\_、=、"）。

ステップ4 Cisco IMC 設定ユーティリティを使用したシステムのセットアップ (15 ページ) に進みます。

## リモート接続によるサーバの設定

この手順には、次の機器が必要です。

- 管理 LAN に接続された RJ-45 イーサネット ケーブル X 1。

始める前に



- (注) システムをリモートで設定するには、システムと同じネットワーク上に DHCP サーバが存在する必要があります。このサーバノードの MAC アドレスの範囲を、DHCP サーバにあらかじめ設定しておく必要があります。このサーバノードでは、Cisco IMC に 6 つの MAC アドレスの範囲が割り当てられています。ラベルに印字されている MAC アドレスは、6 つの連続 MAC アドレスのうち最初のものです。

ステップ1 電源コードをサーバの各電源装置に接続し、次に、接地された AC 電源コンセントに各コードを接続します。

初回のブート時には、サーバが起動してスタンバイ電源モードになるまでに約 2 分かかります。システムの電源ステータスは、前面パネルのシステムの電源ステータス LED で確認できます。LED がオレンジの場合、サーバはスタンバイ電源モードです。

ステップ2 管理イーサネット ケーブルを背面パネルの専用管理ポートに差し込みます。

ステップ3 事前設定された DHCP サーバで、サーバノードに IP アドレスを割り当てられるようにします。

ステップ4 割り当てられた IP アドレスを使用して、サーバノードの Cisco IMC にアクセスし、ログインします。IP アドレスを特定するには、DHCP サーバの管理者に相談してください。

- (注) サーバのデフォルトのユーザ名は *admin*、デフォルトパスワードは *password* です。

ステップ5 Cisco IMC サーバの [Summary] ページで、[Launch KVM Console] をクリックします。別の KVM コンソールウィンドウが開きます。

ステップ6 Cisco IMC の [Summary] ページで、[Power Cycle Server] をクリックします。システムがリブートします。

ステップ7 KVM コンソール ウィンドウを選択します。

- (注) 次のキーボード操作を有効にするには、KVM コンソール ウィンドウがアクティブ ウィンドウである必要があります。

ステップ8 プロンプトが表示されたら、F8 を押して、Cisco IMC 設定ユーティリティを起動します。このユーティリティは、KVM コンソール ウィンドウで開きます。

- (注) Cisco IMC 設定ユーティリティを初めて開始すると、デフォルトのパスワードの変更を要求するプロンプトが表示されます。デフォルトパスワードは`password`です。強力なパスワード機能が有効になっています。

強力なパスワードの要件は、次のとおりです。

- パスワードは最低 8 文字、最大 14 文字とすること。
- パスワードにユーザ名を含めないこと。
- パスワードには次の 4 つのカテゴリの中から 3 つに該当する文字を含めること。
  - 大文字の英字 (A ~ Z)
  - 小文字の英字 (a ~ z)
  - 10 進数の数字 (0 ~ 9)
  - 非アルファベット文字 (!, @, #, \$, %, ^, &, \*, -, \_, =, ")。

ステップ 9 Cisco IMC 設定ユーティリティを使用したシステムのセットアップ (15 ページ) に進みます。

## Cisco IMC 設定ユーティリティを使用したシステムのセットアップ

### 始める前に

システムに接続して Cisco IMC 設定ユーティリティを開いた後に、次の手順を実行します。

ステップ 1 NIC モードを設定して、サーバ管理用の Cisco IMC へのアクセスに使用するポートを選択します。

- **[Shared LOM EXT]** (デフォルト) : これは、工場出荷時設定の Shared LOM 拡張モードです。このモードでは、Shared LOM インターフェイスと Cisco Card インターフェイスの両方がイネーブルです。次のステップで、NIC 冗長性設定にデフォルトの **[Active-Active]** を選択する必要があります。
- NIC モードでは、DHCP 応答が Shared LOM ポートと Cisco カードポートの両方に返されます。サーバがスタンドアロンモードであるために、Cisco カード接続でその IP アドレスが Cisco UCS Manager システムから取得されないと判別された場合は、その Cisco カードからのその後の DHCP 要求はディセーブルになります。スタンドアロンモードで Cisco カードを介して Cisco IMC に接続する場合は、Cisco Card NIC モードを使用します。
- **[Shared LOM]** : Cisco IMC へのアクセスに 1 Gb/10 Gb イーサネットポートを使用します。次のステップで、NIC 冗長性設定に **[Active-Active]** または **[Active-standby]** を選択する必要があります。
  - **[Dedicated]** : Cisco IMC へのアクセスに専用管理ポートを使用します。次のステップで、NIC 冗長性設定に **[None]** を選択する必要があります。

- **[Cisco Card]** : Cisco IMC へのアクセスに取り付け済みの Cisco UCS 仮想インターフェイス カード (VIC) のポートを使用します。次のステップで、NIC 冗長性設定に **[Active-Active]** または **[Active-standby]** を選択する必要があります。

必須の VIC スロットの設定も下記で参照してください。

**ステップ 2** 必要に応じて、NIC 冗長性を設定します。このサーバでは、次の 3 つの NIC 冗長性設定を行うことができます。

- **[None]** : イーサネット ポートは個別に動作し、問題が発生した場合にフェールオーバーを行いません。この設定は、専用 NIC モードでのみ使用できます。
- **[Active-standby]** : アクティブなイーサネット ポートに障害が発生した場合、スタンバイ ポートにトラフィックがフェールオーバーします。Shared LOM と Cisco Card モードでは、それぞれ **[Active-standby]** と **[Active-active]** の設定を使用できます。
- **[Active-active]** (デフォルト) : すべてのイーサネット ポートが同時に使用されます。Shared LOM EXT モードでは、この NIC 冗長性設定のみを使用する必要があります。Shared LOM と Cisco Card モードでは、それぞれ **[Active-standby]** と **[Active-active]** の設定を使用できます。

**ステップ 3** ダイナミック ネットワーク設定用に DHCP をイネーブルにするか、スタティック ネットワーク設定を開始するかを選択します。

(注) DHCP をイネーブルにするには、DHCP サーバにこのサーバの MAC アドレスの範囲をあらかじめ設定しておく必要があります。MAC アドレスはサーバ背面のラベルに印字されています。このサーバでは、Cisco IMC に 6 つの MAC アドレスの範囲が割り当てられています。ラベルに印字されている MAC アドレスは、6 つの連続 MAC アドレスのうち最初のものです。

静的 IPv4 および IPv6 設定には次が含まれます。

- Cisco IMC の IP アドレス。  
IPv6 の場合、有効な値は 1 ~ 127 です。
- ゲートウェイ。  
IPv6 の場合、ゲートウェイが不明な場合は、:: (コロン 2 つ) を入力して **none** のままに設定することができます。
- 優先 DNS サーバアドレス。  
IPv6 の場合、:: (コロン 2 つ) を入力してこれを **none** のままに設定することができます。

**ステップ 4** (任意) VLAN の設定を行います。

**ステップ 5** F1 を押して 2 番目の設定ウィンドウに移動したら、次のステップに進みます。  
2 番目のウィンドウで **F2** を押すと、最初のウィンドウに戻ることができます。

**ステップ 6** (任意) サーバのホスト名を設定します。

**ステップ 7** (任意) ダイナミック DNS をイネーブルにし、ダイナミック DNS (DDNS) ドメインを設定します。

**ステップ 8** (任意) **[Factory Default]** チェックボックスをオンにすると、サーバは出荷時の初期状態に戻ります。



**ステップ 9** (任意) デフォルトのユーザ パスワードを設定します。

(注) サーバのデフォルトのユーザ名は *admin* です。デフォルト パスワードは *password* です。

**ステップ 10** (任意) ポート設定の自動ネゴシエーションをイネーブルにするか、ポート速度およびデュプレックスモードを手動で設定します。

(注) 自動ネゴシエーションは専用 NIC モードを使用する場合にのみ使用できます。自動ネゴシエーションはサーバが接続されているスイッチ ポートに基づいて自動的にポート速度およびデュプレックス モードを設定します。自動ネゴシエーションをディセーブルにした場合、ポート速度およびデュプレックス モードを手動で設定する必要があります。

**ステップ 11** (任意) ポート プロファイルとポート名をリセットします。

**ステップ 12** F5 を押して、行った設定に更新します。新しい設定が表示され、メッセージ「Network settings configured」が表示されるまでに約 45 秒かかる場合があります。その後、次の手順でサーバを再起動します。

**ステップ 13** F10 を押して設定を保存し、サーバを再起動します。

(注) DHCP のイネーブル化を選択した場合、動的に割り当てられた IP アドレスと MAC アドレスがブートアップ時にコンソール画面に表示されます。

### 次のタスク

ブラウザと Cisco IMC の IP アドレスを使用して、Cisco IMC 管理インターフェイスに接続します。IP アドレスは、行った設定に基づいています（スタティック アドレスまたは DHCP サーバによって割り当てられたアドレス）。



(注) サーバのデフォルトのユーザ名は *admin* です。デフォルト パスワードは *password* です。

サーバを管理するには、ご使用の Cisco IMC リリースに対応するこれらのインターフェイスの使用手順について『Cisco UCS C-Series Rack-Mount Server Configuration Guide』または『Cisco UCS C-Series Rack-Mount Server CLI Configuration Guide』を参照してください。構成ガイドへのリンクについては、『[Cisco UCS C-Series Documentation Roadmap](#)』を参照してください。

## NIC モードおよび NIC 冗長性設定

表 1: 各 NIC モードに対する有効な NIC 冗長性設定

NIC モード	有効な NIC 冗長性設定
Shared LOM EXT	Active-active
Dedicated	なし

Shared LOM	Active-active Active-standby
Cisco Card	Active-active Active-standby

このサーバには、次のような選択可能な NIC モード設定があります。

- **[Shared LOM EXT]** (デフォルト) : これは、工場出荷時設定の Shared LOM 拡張モードです。このモードでは、Shared LOM インターフェイスと Cisco Card インターフェイスの両方がイネーブルです。次のステップで、NIC 冗長性設定にデフォルトの **[Active-Active]** を選択する必要があります。

NIC モードでは、DHCP 応答が Shared LOM ポートと Cisco カード ポートの両方に返されます。サーバがスタンドアロンモードであるために、Cisco カード接続でその IP アドレスが Cisco UCS Manager システムから取得されないと判別された場合は、その Cisco カードからのその後の DHCP 要求はディセーブルになります。スタンドアロン モードで Cisco カードを介して Cisco IMC に接続する場合は、Cisco Card NIC モードを使用します。

- **[Shared LOM]** : Cisco IMC へのアクセスに 1 Gb/10 Gb イーサネット ポートを使用します。次のステップで、NIC 冗長性設定に **[Active-Active]** または **[Active-standby]** を選択する必要があります。
- **[Dedicated]** : Cisco IMC へのアクセスに専用管理ポートを使用します。次のステップで、NIC 冗長性設定に **[None]** を選択する必要があります。
- **[Cisco Card]** : Cisco IMC へのアクセスに取り付け済みの Cisco UCS 仮想インターフェイスカード (VIC) のポートを使用します。次のステップで、NIC 冗長性設定に **[Active-Active]** または **[Active-standby]** を選択する必要があります。

必須の VIC スロットの設定も下記で参照してください。

このサーバには、次のような選択可能な NIC 冗長化設定があります。

- **[None]** : イーサネット ポートは個別に動作し、問題が発生した場合にフェールオーバーを行いません。この設定は、専用 NIC モードでのみ使用できます。
- **[Active-standby]** : アクティブなイーサネット ポートに障害が発生した場合、スタンバイポートにトラフィックがフェールオーバーします。Shared LOM と Cisco Card モードでは、それぞれ **[Active-standby]** と **[Active-active]** の設定を使用できます。
- **[Active-active]** (デフォルト) : すべてのイーサネット ポートが同時に使用されます。Shared LOM EXT モードでは、この NIC 冗長性設定のみを使用する必要があります。Shared LOM と Cisco Card モードでは、それぞれ **[Active-standby]** と **[Active-active]** の設定を使用できます。

## システム BIOS へのアクセス

**ステップ 1** ブート中にメッセージが表示されたら、F2 キーを押して BIOS セットアップ ユーティリティに切り替えます。

(注) このユーティリティの [Main] ページに、現在の BIOS のバージョンとビルドが表示されます。

**ステップ 2** 矢印キーを使って、BIOS メニュー ページを選択します。

**ステップ 3** 矢印キーを使って、変更するフィールドを反転表示にします。

**ステップ 4** Enter キーを押して変更するフィールドを選択し、そのフィールドの値を変更します。

**ステップ 5** Exit メニュー画面が表示されるまで右矢印キーを押します。

**ステップ 6** Exit メニュー画面の指示に従って変更内容を保存し、セットアップ ユーティリティを終了します（または、F10 を押します）。Esc キーを押すと、変更内容を保存せずにユーティリティを終了できます。

## BIOS および Cisco IMC のファームウェアの更新



**注意** BIOS ファームウェアをアップグレードする場合、Cisco IMC ファームウェアも同じバージョンにアップグレードする必要があります。アップグレードしないと、サーバが起動しません。BIOS と Cisco IMC のファームウェアが一致するまで電源をオフにしないでください。オフにすると、サーバが起動しなくなります。

シスコは、BIOS、Cisco IMC、およびその他のファームウェアを互換性のあるレベルに同時にアップグレードできるよう支援するために、*Cisco Host Upgrade Utility* を提供しています。

サーバには、シスコが提供し、承認しているファームウェアが使用されています。シスコは、各ファームウェア イメージと共にリリース ノートを提供しています。ファームウェアを更新するには、いくつかの方法があります。

- **ファームウェアの更新に推奨される方法**：Cisco Host Upgrade Utility を使用して、Cisco IMC、BIOS、およびコンポーネントのファームウェアを互換性のあるレベルに同時にアップグレードします。

ファームウェア リリースについては、下記のマニュアルロードマップリンクにある『*Cisco Host Upgrade Utility Quick Reference Guide*』を参照してください。

- Cisco IMC の GUI インターフェイスを使用して Cisco IMC と BIOS ファームウェアをアップグレードできます。

『*Cisco UCS C-Series Rack-Mount Server Configuration Guide*』を参照してください。

- Cisco IMC の CLI インターフェイスを使用して Cisco IMC と BIOS ファームウェアをアップグレードできます。

『*Cisco UCS C-Series Rack-Mount Server CLI Configuration Guide*』を参照してください。

上記のドキュメントへのリンクについては、『[Cisco UCS C-Series Documentation Roadmap](#)』を参照してください。